

心得

真宗大谷派〔東本願寺〕の儀式作法は五百余年にわたる伝統仏事です。
よって、それに携わる人は以下のことを心得て下さい。

① 「私」を入れない

自分流や好みを入れたり、ショーアップしないこと。

② 勝手な判断をしない

独断で作法を曲げないこと。

不明なことは些細なことでも住職に聞いて下さい。

③ 儀式作法に対して謙虚に

手を抜かないこと、気配りを欠かさないこと。

④ 故人の経歴や人柄等の「語り」はしない

遺族の別れの時間を占有して取材すること、

短い取材で本人を語ることは無配慮だと考えます。

⑤ 「典礼」と「アナウンス」を混同しない

「合掌よろしくお願ひ致します。」

「お解き下さいませ。」

「表白を賜ります。」などは典礼ではありません。

⑥ 調声中は静粛に

導師調声中のアナウンスは御法度です。

スタッフが雑音を立てたり動いたりすることも厳禁です。

ただし、一般参列者は構いません。

⑦ 儀式の前後は住職控室まで

挨拶も儀式の一部です。打ち合わせと助言をさせていただきます。

「礼」で始まり「礼」で終わります。

⑧ 「金欄スリッパ」は用いない

真宗大谷派の葬儀には「浅沓」〈左図〉を用いるのが正式です。

金欄スリッパは「草鞋」〈中図〉の代用品であって葬儀には向きません。

ましてや朱色の草鞋は御門首専用であり、末寺の住職が履くことは

東本願寺に対して大変失礼になるので気をつけて下さい。



あさくつ
「浅沓」



そうかい
「草鞋」



「金欄スリッパ」

【スタッフ】

- ご本尊前と法名牌の前に仏飯を供える
- 白色の和ろうそくを用いる
- 棺の上に「修多羅」を置かない
※修多羅を載せるのは僧侶の場合のみ



ぶく ぶつぼん
仏供 (仏飯)



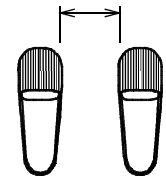
いかりがた
碓型和ろうそく

- 棺の窓は閉めておく
- 親族・来賓は内側を向いて整列
- 和室の場合、座っての焼香が原則
- 全員着座

あさぐつ
●浅沓の取り扱い

- ◎和室の場合
- ①上り 框 先の畳上に浅沓を一足幅広げて置いておく
 - ②導師は足袋 (または雪駄) で入堂
 - ③浅沓を履いて儀式執行
 - ④浅沓をぬいで足袋 (または雪駄) で退堂
 - ⑤スタッフは浅沓を撤収

一足幅以上



- ◎洋室の場合
- ①曲録の右前に浅沓を一足幅広げて置いておく
 - ②導師は雪駄で入堂
 - ③曲録手前で浅沓に履き替え
 - ④スタッフは雪駄を撤収
 - ⑤浅沓を履いて儀式執行
 - ⑥「導師退堂」の典礼後、
スタッフは雪駄を
右図のように置く
 - ⑦浅沓をぬいで雪駄で退堂
 - ⑧スタッフは浅沓を撤収



曲録

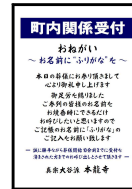
導師入堂前

曲録

「導師退堂」 典礼後

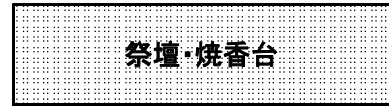
【司会者】

- 「町内受付」プレートを設置
※受付の方と打ち合わせ
※特に「開式10分前までの受付票を
いただきに來ます」と伝える



- 会葬者に焼香作法を指導

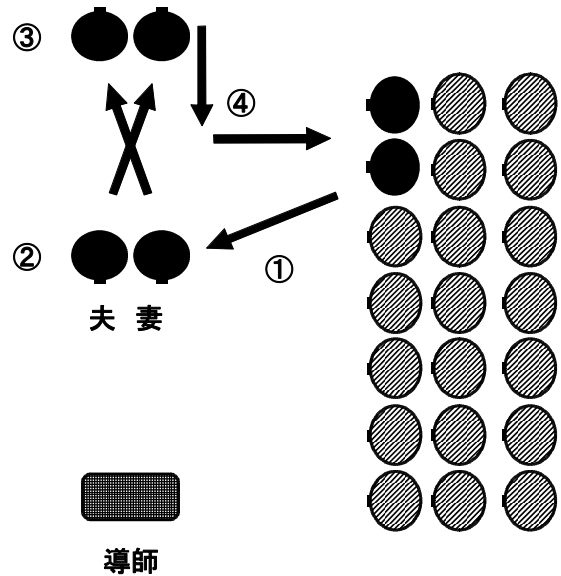
- ①名前を呼ばれたら前に進む
夫婦の場合は
夫が妻の右に位置すること



- ②導師に正面から対面
頭礼
合掌は不要

- ③次に祭壇の前進み
それぞれ焼香
※焼香作法については
「通夜式典次第」を参照のこと

- ④焼香後に
もう一度導師に向かう
それぞれ頭礼して復座



- 喪主と家族は、葬儀中の一般会葬者への挨拶で席を離れない旨確認
※近親者（故人の親子=1親等）以外なら代理は可

- 葬儀委員長の葬場勤行での焼香は、夫婦一緒でもよい
※灰葬勤行の焼香は本人のみ

- 灰葬勤行の焼香は、喪主家族、喪主兄弟夫婦、葬儀委員長までと伝える

- 携帯電話のマナーモード他、適宜指示

式次第	住職所作	司会者の言葉・式進行・スタッフの動き
①出仕	入堂・着座	「導師、入堂。」
②開式の辞	完全静止 [役僧も] 合掌を解く	「ただ今から法名 釋○○、俗名 故○○○○様の葬儀を執り行います。 一同合掌。」 解いたらすぐに「お解き下さい。」
③大導師焼香	焼香・合掌 合掌を解く 表白 復座	「導師、焼香。」 住職が合掌し称名を一回聞いてから「導師に合わせて、合掌をお願い致します。」 解いたらすぐに「お解き下さい。」 少し間をおいて「表白。」
④葬場勤行	完全静止 [役僧も] 勤行 「五劫思惟…」 勤行終了 合掌を解く	「葬場勤行。」 正信偈が始まる お立ち合いがおられる場合「お立ち合い <small>ほつちゆう</small> 法中、焼香」 ※僧侶が着座するまで次のアナウンス厳禁 「ただ今より焼香に入ります。喪主○○○○様。」 ●喪主家族、喪主の兄弟家族、葬儀委員長の順に呼び出し ●喪主家族が復座するまで次を呼ばない ●葬儀委員長は、前の焼香人が着座し静止されたら呼ぶ ●葬儀委員長が復座し静止されたら次を呼ぶ ●喪主が焼香作法を著しく間違えた場合は 次の焼香者に歩み寄って正しい作法をフォローする ●喪主と家族は葬儀終了まで席を離れない ※近親者（故人の子＝1親等）以外の代理なら可 ●会葬者全員の焼香読み上げ ※当日受付分は、事前に作った名簿と重複がないか確認しておき、 足を運んでくれた町内の方は極力名前を読み上げる ●大導師調声中のアナウンスは厳禁 ※なるべく「な-ま-だ-ぶ-」内ですべての名前読み上げを終わらせる ※調声寸前と助音直後のアナウンスは避ける 3つめの <small>きん</small> 鑿の後、間髪入れずに「一同合掌。」 解いたらすぐに「お解き下さい。」
⑤弔電披露		「ここで、故人に対しまして各方面より弔電を…。」 ●弔電が非常に多い場合は打ち合わせの上、20通程度に厳選する ●スタッフは灰葬勤行の支度 ※補則参照

<p>⑥灰葬勤行</p> <p>焼香・合掌</p> <p>合掌を解く 復座・完全静止 三誓偈</p> <p>勤行終了 合掌を解く</p>		<p>スタッフ退場</p> <p>「灰葬。」</p> <p>住職が合掌し称名を一回聞いてから「導師に合わせて、合掌をお願い致します。」</p> <p>解いたらすぐに「お解き下さい。」</p> <p>「読経。」</p> <p>調声後「代表焼香。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●喪主と家族、喪主の兄弟夫婦、葬儀委員長のみ焼香 ●焼香に出て行かない場合は、司会者が速やかに誘導 <p>3つめの鑿の後、間髪入れずに「一同合掌。」</p> <p>解いたらすぐに「お解き下さい。」</p>
<p>⑦喪主挨拶</p>		<p>「喪主挨拶。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●夫婦の場合は必ず二人で <p>挨拶終了後、喪主復座</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マイクは撤収しない
<p>⑧閉式の辞</p>	<p>合掌を解く</p>	<p>「以上をもちまして、法名 釋〇〇、俗名 故〇〇〇〇様の葬儀を終了致します。一同合掌。」</p> <p>解いたらすぐに「お解き下さい。」</p>
<p>⑨退出</p>	<p>退出</p>	<p>「導師、退堂。」</p>
<p>⑩挨拶</p>		<p>司会者は式終了後、速やかに住職控え室に来ること</p>

文責・真宗大谷派 本龍寺 住職 樋口祐慈

愛知県安城市和泉町中本郷41 TEL.0566-92-0505 FAX.0566-92-5212

※本龍寺ホームページ <http://www.honryuji.net>

※本龍寺メール honryuji@poplar.ocn.ne.jp

※出典明示を条件に、複写・転載可

※随時バージョンアップの上、ホームページにて最新版を公開中



◎ 調声ちょうしやう中のアナウンスは厳禁

「五劫思惟…」以降に注意する調声（赤文字）

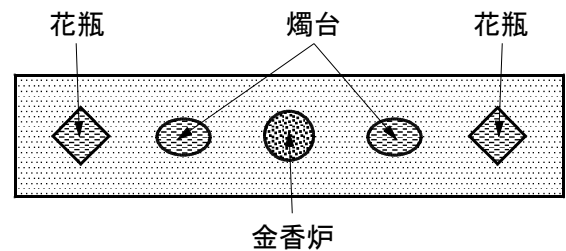
- 正信偈最後「唯可信斯高僧説」後の「**な-ま-だ-ぶ-^{キン}**」
- 読み上げ終了後「な-ま-だ-^{キン}ぶ-」後の「**南無阿弥陀仏**」さんじゆう（三重念仏）
- 三重念仏「南無-」後の「**本願力にあいぬれば**」（男性の場合）
 「**正覚**」しょうがく（男性和讃2首目の頭）
 「**眞実信心うるひとは**」しんじつしんじん（女性の場合）
 「**仏智**」ぶつち（女性和讃2首目の頭）
- 「**願以此功德**」がんにしきどく

◎ 葬儀における焼香作法について

これまで葬儀の焼香は、立ち会いの僧侶も喪主も一般参列者も、まず導師に正対し合掌してから祭壇へ向かっていましたが、これは「古来からの三河地方の伝統であって大谷派の儀式作法的には異なる」ので徹底する旨、東本願寺より通達がありました。そもそも古来よりの屋外の葬儀では、ご本尊を掛ける場所がないので、導師の七条袈裟につけられた修多羅しゆたら（＝組紐）をご本尊と位置づけて、焼香時に合掌していました。しかし昨今は、どこの葬儀会場でもきちんとご本尊を安置しての葬儀式が執行されていることに鑑み、「衣を拝む」というより「ご本尊を中心にした儀式」を推進し徹底していきたい、というのがご本山のご意向であると思われます。

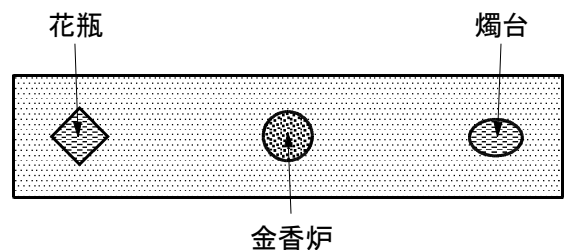
◎ スタッフの灰葬勤行の支度について

- ① 下手から入場
 ※安城市総合斎苑では上手入場
- ② トレイを持ったまま導師に頭礼
- ③ トレイを脇に置く
- ④ 荘しょうごん 殿の切り換え
 - 金香炉の蓋をあける
 - 香箸こうぼしで炭火を綺麗にする
- 《五具足の場合》
 - 向かって右口ウソク消火
 - // 左口ウソク //
 - 向かって右花瓶かひんしかの紙花撤去
 - // 左花瓶の紙花 //
 - 向かって右花瓶に櫛をさす
 - // 左花瓶に櫛 //
 - 向かって右口ウソク点灯
 - // 左口ウソク //
- ⑥ トレイを持ったまま導師に頭礼
- ⑦ 退場



《三具足の場合》

- 口ウソク消火
- 花瓶の紙花撤去
- 花瓶に櫛をさす
- 口ウソク点灯



※スタッフの動きが止まるまで、司会者は典礼「灰葬」が言えない
 速やかに退室するか、その場で静止すること
 調声「**我建超世願**」が終わるまで動かない